

# 履修要綱

(コミュニケーションデザイン研究科)

## コミュニケーションデザイン研究科 修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

コミュニケーションデザイン研究科はコミュニケーションデザイン分野における高度専門職業人の責務を、① 情報メディア環境の変化を中心とした社会動向を理解すること、② それとの関係性のなかで、自身の携わる組織やプロダクトの理念（ビジョン）を理解すること、③ 理念（ビジョン）を対象となるステークホルダーの特性に応じた適切なコミュニケーション戦略により共有すること、④ コミュニケーションデザイン分野の実務上ないし理論上の課題を発見し、具体的な解決方法を提言できること、という4種類に整理している。したがって本研究科は、所定の修了要件を満たし、下記の到達目標に達した学生について、コミュニケーションデザイン分野の高度専門職業人として専門的な研究力・実践力を修めたものと認め、コミュニケーションデザイン修士（専門職）の学位を授与する。

- ① 現代社会の動向や情報メディアの発展状況に関心を持ち、理論と実践の両面において知見を継続的にアップデートできる。
- ② 自らの携わる組織やプロダクト等の基礎となる理念（ビジョン）について、それを取り巻く社会環境を踏まえて、理論と実践両面の視点から理解できる。
- ③ 自らの携わる組織やプロダクト等に関わる多様な利害関係者について、それぞれの特性を把握するとともに、個別具体的なコミュニケーション戦略を策定し、実行できる。
- ④ コミュニケーションデザイン分野の実務上ないし理論上の課題を自ら発見し、論理的かつ実効的な解決方法を提言できる。

## コミュニケーションデザイン研究科 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

コミュニケーションデザイン研究科は、ディプロマ・ポリシーに示した目標を学生が達成できるよう、次の方針に基づき教育課程を編成・実施する。

- ① 現代社会の動向や情報メディアの発展状況について、理論と実践の両面から修得するための科目を配置する。
- ② 自らの携わる組織やプロダクト等の基礎となる理念（ビジョン）を、社会環境の変化のなかで適切に見定めるための能力を養う科目を配置する。
- ③ 自らの携わる組織やプロダクト等に関わる多様な利害関係者の特性を把握し、対象に応じて適切なコミュニケーションを戦略立てて実行するための能力を養う科目を配置する。
- ④ コミュニケーションデザイン分野の実務上ないし理論上の課題を自ら発見し、論理的かつ実効的な解決方法を提言するための理論と方法を学修するための演習科目を配置する。

- ・ 教育課程の編成にあたっては、コミュニケーションデザイン分野の基本的な概念と前提知識を身につけるとともに、社会動向への感受性を養う「基礎科目」、同分野の学術や実践に関する基礎的な知識を修得する「専門基礎科目」、同分野の核となる専門知識や技能を学ぶ「専門科目」、学生個々人の専門性に応じた調査研究を行う「演習科目」の4区分を段階別に設け、それぞれの科目を配置する。
- ・ 「演習科目」では、各学生が個別に設定した研究テーマに関する研究成果報告書の完成に向けた指導を行う。学生は2年間を通じて、研究活動に必要な基礎的な素養を身につけ、実現可能な研究テーマを策定し、複数の科目を履修することで、多角的な視点から指導を受ける。
- ・ 研究成果報告書の指導には、担当教員を中心に本研究科のすべての教員があたり、個別の指導・助言を行うほか、複数回の研究報告会・研究審査会を設けることで、学生が多面的な観点から指導・助言を受ける機会を設ける。
- ・ 授業形態は、コミュニケーションデザイン分野における高度な知識や手法を体系的に学ぶ「講義」と、実践的に身につける「演習」に大別される。いずれの授業形態においても、専門職大学院の趣旨に鑑み、双方向の少人数教育を重視し、ディスカッションに加えて、ケース・スタディ、ワークショップ、ロールプレイング等の形式での授業を積極的に取り入れる。
- ・ 各科目の学修成果は、筆記試験、レポート試験、演習成果等に加え、各科目の性格に応じて、授業内課題、質疑応答や討論への貢献状況、演習にあつては期間中の調査・準備の状況に基づいて評価する。成績評価は100点満点で行い、80点以上を優、70点から79点までを良、60点から69点までを可、59点以下を不可とし、優・良・可の評価に対して単位を認定する。成績評価の具体的な方法は、シラバスにおいて授業科目ごとに明示する。

# 1. 科目区分

コミュニケーションデザイン研究科のカリキュラムは「基礎科目」、「専門基礎科目」、「専門科目」、「演習科目」より構成されています。各科目群で所定の単位数を満たす必要がありますので（「4. 修了要件」参照）、ご確認のうえ履修科目を選択してください。

新入生は履修科目の選択にあたって、教員との事前の履修相談が義務づけられています。詳細は導入集中授業（ガイダンス）の初日にご説明します。新入生以外の院生も履修相談を申し込むことができますので、大学院事務局までお問い合わせください。

## 1-1 基礎科目

基礎科目には、コミュニケーションデザイン分野の基本的な概念や理論といった前提知識を身につける科目、社会動向への感受性を養うことを目的とした科目、研究方法の基礎を身につけるための科目が配当されています。

## 1-2 専門基礎科目

専門基礎科目には、コミュニケーションデザイン分野の学術や実践に関する基礎的な知識を修得するための科目が配当されています。

## 1-3 専門科目

専門科目には、コミュニケーションデザイン分野の高度専門職業人として活躍するために必要な、同分野の核となる専門知識や専門技能を学ぶための広範な領域にわたる科目が配当されています。

## 1-4 演習科目

院生個々人の専門性に応じた調査研究を行う演習科目（ゼミ）は選択必修科目です。1年次には1科目を、2年次には2科目を履修します。それぞれの演習は1年生と2年生が混在する形式で運営されます。

1年次の履修については各期の導入集中授業（ガイダンス）の際に、2年次の履修にあたっては、2024年1月中旬（9月入学者は2024年8月上旬）に説明会を実施いたします。演習科目において「研究成果報告書」の指導を受け、最終審査会に合格することは、本学の修了要件のひとつです。

## 2. 履修登録

### 2-1 手続き期間

前期・後期それぞれの履修期間において、オンラインで履修登録手続きを行っていただきます。本学では各期の1週目を「オリエンテーション期間」としており、演習を除く授業の第1講について、該当研究科の全学生に録画を公開していますので、授業の内容を確認したうえで履修科目を決定してください。時間割等の変更がある場合は、Teams または掲示等でお知らせしますので、必ず確認のうえ履修申請をしてください。履修登録がなされていない科目の単位取得は認められません。

前期授業科目の履修申請期間	2023年4月17日(月) - 4月26日(水)
後期授業科目の履修申請期間	2023年9月25日(月) - 10月5日(木)

※ やむを得ない事情で履修修正が必要な場合、大学院事務局に直接ご相談ください

各科目のシラバスは、授業開始に先立って、授業科目の内容をあらかじめ示し、学修意欲の向上、学修内容の充実を目的として作成しています。オリエンテーション期間では、担当教員がシラバスに基づいて授業概要を説明いたしますので、必ず本冊子またはデータをお手元にご用意ください。同一時間帯に開講される授業を重複して履修することはできません。また、学期途中での履修放棄はできませんので、十分にご検討のうえ履修科目を決定してください。

### 2-2 単位CAP制について

コミュニケーションデザイン研究科の院生が単年度に取得できる単位数の上限は下表の通りです。なお、既に習得した科目を再度履修することは原則として認められません。

令和3(2021)年度以前の入学者	30単位
令和4(2022)年度以降の入学者	26単位

院生が1年間または1学期に履修登録できる単位数の上限(単位CAP)について、大学設置基準第27条の2は以下のように規定しています。本条の趣旨は、院生による単位の過剰登録を防ぐとともに、単位を取得するために十分な学習時間を確保する「単位制度の実質化」を図ることにあります。ここでいう「履修科目として登録」には、修了単位に算入されない「自由科目」の履修登録も含まれます。なお、コミュニケーションデザイン研究科では、夏季集中授業・春季集中授業の単位は単位CAPを超えて履修できます。

**第二十七条の二** 大学は、学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、卒業の要件として学生が修得すべき単位数について、学生が1年間又は1学期に履修科目として登録することができる単位数の上限を定めるよう努めなければならない。

2 大学は、その定めるところにより、所定の単位を優れた成績をもって修得した学生については、前項に定める上限を超えて履修科目の登録を認めることができる。

大学設置基準第21条では「一単位の授業科目を四十五時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準」とする旨規定されており、したがって2単位の授業は「実際の授業時間 + 事前学習 + 事後学修」あわせて90時間の内容で構成されることになり、単位CAPを超えた履修は物理的に困難といえます。

院生のみなさまにおかれましては、単位 CAP 制の趣旨を何卒ご理解いただき、十分に履修科目を吟味のうえ決定してください。本学教員が履修相談に応じる機会も設けておりますので、ぜひご活用ください。

## 2-3 履修相談制度について

社会人大学院での学習効果を最大化するためには、実務と学習のバランスを十分に考慮した実現可能な履修計画を立てることが必要不可欠です。本研究科の1年生は、入学式から履修申請期間の最終日までの間に教務担当教員等との履修相談が義務づけられています。詳細は導入集中授業（ガイダンス）の初日に案内します。おなじ期間に2年生からの履修相談も受け付けますので、状況に応じて活用してください。

## 2-4 履修モデル

以下に示す履修モデルは、「コーポレート・コミュニケーションデザイン」、「公共コミュニケーションデザイン」、「サステナビリティ・コミュニケーションデザイン」それぞれの領域について、修了要件を満たしつつ体系的・効率的な学習を実現するための履修順序を示したものです（いずれも4月入学者向けのモデルです）。独自の履修計画を立案するための参考にしてください。基本的には、1年次前期にはコミュニケーションデザイン分野の基礎的な理論を学ぶ基礎科目や専門基礎科目を中心に履修し、後期および2年次にかけてより専門性の高い授業を履修することが推奨されます。

### (1)コーポレート・コミュニケーションデザイン

経営とコミュニケーションは表裏一体であり、同分野の専門家に求められるのは「組織の理念を適切な方法で社会と共有すること」です。下図のように履修することで、経営学の基礎知識から具体的な組織のコミュニケーション戦略まで、コーポレート・コミュニケーションに関する幅広い内容を学ぶことができます。

	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
演習科目	コミュニケーションデザイン演習7(リスク)		コミュニケーションデザイン演習2(広報学) コミュニケーションデザイン演習5(経営学)	
専門科目		リスク・コミュニケーション特論A(組織)	インターナル・コミュニケーション	IR(財務広報) 広報マネジメント
専門基礎科目	リスク・マネジメント	企業理念・経営哲学 コーポレート・コミュニケーション		
基礎科目	CD概論 経営学基礎理論	組織論		

## (2) 公共コミュニケーションデザイン

下図の履修モデルでは、社会的意義を有しながらも社会から関心が持たれづらい（あるいはマイナスのイメージを持たれている）領域や、公共セクターにおける関係構築について、理論と実践の両面から学ぶことができます。授業のなかで政策提言を行うなど、机上にとどまらない学びを経験できることも特徴です。

	1 年次前期	1 年次後期	2 年次前期	2 年次後期
演習科目	コミュニケーションデザイン 演習10 (メディア)		コミュニケーションデザイン 演習4 (公共) コミュニケーションデザイン 演習6 (マーケティング)	
専門科目		サイエンス・コミュニケーション ソーシャル・コミュニケーション	情報戦略論 シティ・プロモーション	リスク・コミュニケーション特論B (災害)
専門基礎科目	公共政策	公共コミュニケーション		
基礎科目	CD概論 情報・文化・コミュニケーション マーケティングの理論と実践			

## (3) サステナビリティ・コミュニケーションデザイン

組織の規模や種類、事業内容にかかわらず、EGS や SDGs といったグローバルな価値観を経営に取り入れることは必要不可欠です。サステナビリティを基軸とした対外的・対内的コミュニケーションを実現するためには、下図のように社会学の知見やルールメイキングの技術を学ぶことも効果的です。

	1 年次前期	1 年次後期	2 年次前期	2 年次後期
演習科目	コミュニケーションデザイン 演習1 (社会学)		コミュニケーションデザイン 演習3 (サステナビリティ) コミュニケーションデザイン 演習8 (グローバル)	
専門科目		SDGsの理論と実践 パブリック・アフェアーズ	プロダクト 広報特論 グローバル・コミュニケーション	オーディエンス・リサーチ
専門基礎科目	マスメディア論	サステナビリティ・コミュニケーション		
基礎科目	CD概論 社会学基礎理論	現代社会論		

### 3. 成績評価

#### 3-1 成績評価

成績は、各科目がシラバスにて定める方法により判定し、以下の通り 4 段階で評価します。不可の科目については、単位は認定しません。成績証明書には、優、良、可の評価を受け、単位を認定された科目が記載されます。成績通知書は、当該期末までに郵送いたします。

優：100 - 80 点　　良：79 - 70 点　　可：69 - 60 点　　不可：59 点以下

#### 3-2 GPA(グレード・ポイント・アベレージ)

本学では、学生自身による学修成果の把握と、教職員による適切な修学指導の実現を目的として、各学期の成績評価票に GPA (学期 GPA および通算 GPA) を記載しています。GPA は各授業科目の点数に基づき下表の通り係数化された数値の平均です。

不可の単位 (59 点～0 点) についても GPA 算出の分母に含みます。学期途中での履修放棄はできませんので、履修科目の選択にあたっては履修相談制度を活用するなど、熟慮のうえ決定してください。

点数	GP
100～90 点	4
89～80 点	3
79～70 点	2
69～60 点	1
59～0 点	0

※ 学期 GPA = (当該学期に各授業で得た GP × 当該授業の単位数) の合計 / 当該学期の履修単位数

※ 通算 GPA = (それまでに各授業で得た GP × 当該授業の単位数) の合計 / それまでの履修単位数

#### 3-3 試験

試験とは、担当教員が学期期間内に独自に実施するテストおよびレポート等を指します。試験期間は特に定めておりませんので、各授業科目の担当教員に確認してください。病気その他やむをえない事故のため、試験を受けることができなかつた場合には、学則第 25 条に基づき、追試験を実施することがあります。

#### 3-4 試験における不正行為

定期試験・授業内試験、レポート等における不正行為は、学則に基づき厳しく処罰されます。当該科目が不合格になるだけでなく、戒告・停学・退学の処分を受けることもあります。

##### (1) 定期試験・授業内試験における不正行為の例

定期試験・授業内試験において、不正とみなされる行為の例は、以下の通りです。

他人の答案を見る・見せる
他人の答案を代筆する・他人に代筆させる
他人の受験を代理した・させた
試験時間中に監督者から配付された答案用紙以外の答案用紙を使用して答案を作成する・使用可能な状態におく
当該試験に持込みを許可された物以外の物を使用して答案を作成する・使用可能な状態におく
持込みを許可された物を含む物品を他人とやり取りする



答案作成に利用する目的で、試験時間中に言語、動作、携帯電話その他の通信手段を用いて相互に連絡を取り合う
答案作成に利用する目的で、学内の施設及び設備並びに受験者の身体、衣服、筆記用具等へ書き込みを行い、それを利用して答案を作成する
その他、試験監督者の指示に従わない

## (2) レポートにおける不正行為防止のポイント

レポートや研究成果報告書における剽窃・盗用は、学問の基本倫理に反し、他人の著作権を侵害するのみならず、自らの学びの機会と公正な評価を妨げる、きわめて重大な不正行為ですので、絶対に行わないでください。研究倫理の遵守については、入学直後に実施する導入集中授業（ガイダンス）等の場でも解説しますので、必ず出席してください。

以下に、執筆上の最も重要なポイントを挙げます。

自分の意見とそれ以外の部分を明確に分ける
文章全体の質・量において、自らの文章が「主」、引用部分は「従」の関係
他人の文章や見解等を引用・参照する場合は、必ず出典を明らかにする
文言を引用するときは、誤字も含めて一字一句正確に引用する
出典の示し方はルールに従う
インターネットからの引用は URL とページタイトル、およびその取得日を載せる
未公開著作物からの引用はしない

演習の履修前に「研究成果報告書・専門職学位論文 執筆の手引き」を配布いたしますので、あわせてご確認ください。また、研究の遂行にあたっては「倫理審査ガイドライン（学生用）」をご参照のうえ、研究倫理の遵守に努めてください。調査対象者又は実験対象者を扱う研究については本学倫理審査委員会による事前審査等が必要になりますので、上記ガイドラインは必ずご確認ください。不明・不安な点がある場合には、演習指導教員に相談してください。

## 4. 修了要件

コミュニケーションデザイン研究科の課程を修了するには、下表に示す要件をすべて満たす必要があります。

① 休学・停学期間を除いて専門職学位課程に2年以上在学すること
② 各科目群において、所定の取得単位数を満たすこと（下表参照）
③ 合計32単位以上を修得すること
④ 研究成果報告書の審査および修了審査に合格すること

※ 単年度に修得できる単位数の上限は「2. 履修登録」をご参照ください

	2020年度入学者	2021・2022年度の入学者	2022年度の入学者
基礎科目	6単位以上		選択必修2単位以上を含む 6単位以上
専門基礎科目	4単位以上		
専門科目	6単位以上		
演習科目	基礎演習から2単位 演習から8単位	演習から12単位 1年次は通年で1科目、2年次は通年で2科目履修	

※ 2019年度以前の入学者は、昨年度以前の大学院便覧をご参照ください

### 4-1 修了審査の手続き

修了審査を受けるにあたっては、以下の書類を提出する必要があります。指定する日時に、指定された方法により大学院事務局に提出してください。提出時間は厳守してください。

- ・研究成果報告書（PDF ファイル）
- ・研究成果報告書サマリー（PDF ファイル）

なお、研究成果報告書は1編に限りますが、参考文献として、その他レポートに類するものを添付することは差し支えありません。研究成果報告書の成績評価に際しては、別途示すループリックを活用します。

### 4-2 研究成果報告書の提出要件

研究成果報告書の提出は、以下の要件を満たした場合にのみ可能となります。

研究科	専攻	研究成果報告書の提出要件
コミュニケーションデザイン研究科	コミュニケーションデザイン専攻	① 研究計画書を提出していること ② 所定の報告会・審査会にて発表していること ③ 所定の科目について32単位以上を取得もしくは取得見込みであること

③について、成績評価の時期と修了式の日程が前後する可能性があることから、3月修了の場合は直前の春季集中授業の単位を、9月修了の場合は直前の夏季集中授業の単位を修了要件に定める単位数に算入することは原則としてできません。必ずそれらの単位数を除いて修了要件を充足するようにご注意ください。当該時期の集中授業を履修することは可能です。

### 4-3 報告会・審査会予定

令和5（2023）年度は、下表の通り報告会・審査会を実施する予定です。入学時期・修了時期によって実施日程が異なりますのでご注意ください。

各報告会・審査会において提出が求められる資料のフォーマットや、各種手引き・ガイドラインについては各演習チーム内「ファイル>クラスの資料>演習ツールキット」フォルダに格納されていますので、随時ご確認ください。

	入 学 時 期			
	2021年9月	2022年4月	2022年9月	2023年4月
1年次中間報告会	済	済	2023年8月5日（土）	2024年2月24日（土）
2年次中間報告会	済	2023年8月5日（土） 2023年8月6日（日）	2024年2月24日（土）	2024年8月予定
2年次中間審査会	2023年6月11日（日）	2023年11月4日（土） 2023年11月5日（日）	2024年6月予定	2024年11月予定
2年次最終審査会	2023年8月20日（日）	2024年2月10日（土） 2024年2月11日（日）	2024年8月予定	2025年2月予定

	2023年9月修了予定者
2年次中間審査会	2022年6月11日（日）
2年次最終審査会	2022年8月20日（日） ※ 再審査：8月28日（月）-9月2日（土）

### 4-4 学位

本研究科において授与される学位は以下の通りです。

研究科名	専攻名	学位名
コミュニケーションデザイン 研究科	コミュニケーションデザイン 専攻	コミュニケーションデザイン修士（専門職）

#### 4-5 令和 5(2023)年度 コミュニケーションデザイン研究科 修了関係日程

##### (1) 2023 年 9 月修了者（表内はすべて 2023 年の日付）

事項	専攻および学位	コミュニケーションデザイン専攻
		コミュニケーションデザイン修士（専門職）
研究成果報告書提出日 ・研究成果報告書（pdf） ・サマリー（pdf）		8月10日（木）
研究科教授会 ・研究成果報告書受理数の確認・修了審査委員会の設置		8月18日（金）
最終審査会 ・主査／副査による研究成果報告書の審査		8月20日（日） 再審査：8月28日（月）-9月2日（土）
修了審査委員会 ・合否判定、審査結果の作成		9月2日（土）
課程修了審議 ・学位授与の審議		9月8日（金）
研究科教授会 ・修得単位、修了審査委員会の結果に基づき決裁		9月8日（金）
学位授与式		9月16日（土）

##### (2) 2024 年 3 月修了者（表内はすべて 2024 年の日付）

事項	専攻および学位	コミュニケーションデザイン専攻
		コミュニケーションデザイン修士（専門職）
研究成果報告書提出日 ・研究成果報告書（pdf） ・サマリー（pdf）		2月1日（木）
研究科教授会 ・研究成果報告書受理数の確認・修了審査委員会の設置		2月9日（金）
最終審査会 ・主査／副査による研究成果報告書の審査		2月10日（土）・2月11日（日・祝） ※予備日：5日（月）-9日（金） 再審査：2月19日（月）-25日（日）
修了審査委員会 ・合否判定、審査結果の作成		3月2日（土）
課程修了審議 ・学位授与の審議		3月8日（金）
研究科教授会 ・修得単位、修了審査委員会の結果に基づき決裁		3月8日（金）
学位授与式		3月23日（土）